

### (3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教 育委員会等	実施機関名・連携機関名 ※実施機関名、及び連携機関名（ある場合のみ）を記載してください。 国立大学法人福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科
コラボ研修プログラム	事業名：【NITS・福井大学連合教職大学院コラボ研修】 主体的な学びが目覚めるとき - 未来を切りひらく学び、それを生み出すコミュニティ
支援事業報告書	研修等名：【NITS・福井大学連合教職大学院コラボ研修】 主体的な学びが目覚めるとき - 未来を切りひらく学び、それを生み出すコミュニティ
	開催日時：令和6年11月16日（土）10：00～16：00 開催場所：東京都板橋区教育支援センター 研修室（東京都板橋区板橋2-66-1） 参加人数（総数）と参加者の属性：（87人）一般教員32人、幼小中高校管理職10人、行政関係者12人、大学教員2人、企業3人、教職大学院教員8人、教職大学院生20人

#### 目的：

新たな教員研修の在り方を問い、子どもたちの学習観の転換を図る主体的な学びを支えるために、子どもの学びと相似形である教師の「主体的、対話的で深い学び」の教員研修を開催する。また、子どもと教師の双方の視点から学びを見つめ直し、実践を支えるコミュニティの在り方を問い、主体的な学びが自走していく過程を参加者それぞれが省察するラウンドテーブルとする。

#### 内容：※全体発表の内容をテーブル起こしするなど、具体的に記載してください。

本研修は、連合教職大学院東京サテライト事務所の教員と東京サテライト院生の協働による企画・運営で開催した教員研修である。

主題を「主体的な学びが目覚めるとき ～未来を切りひらく学び、それを生み出すコミュニティ～」として、第一部に福井大学理事・副学長松木健一氏による基調講演を行い、第二部では次の3名の実践報告が行われた。

・テーマ「年少児保育におけるプロジェクト保育 ―探究と協働の始まりを考える―」

さくら認定こども園 園長 伊藤 康弘 氏

・テーマ「東京大学教育学部附属中等教育学校で6年間「探究学習カリキュラム」を受け、そこから10年経った今、果たして私は「探究」出来ているのか」

株式会社コナミデジタルエンタテインメント 作曲家(リードコンポーザー) 中島 直樹 氏

・テーマ「主体的に学ぶ姿になるために～地域と連携・協働した探究的な学び「おがわ学」の実践から～」

埼玉県立小川高等学校教頭 岡本 敏明 氏

第三部では、第一・二部を受けて、福井大学連合教職大学院スタッフの清川氏、中森氏、浦井氏、向当氏を含む20名がファシリテーターを行い参加者一人一人がこれまでの実践、教師としての成長のプロセスを振り返り、自身の経験・学校種、地域の枠を超えて語り合いながら子どもの主体的な学びを支え、共に成長する教師・学校について考えた。そして、互いの実践を傾聴・語り合い・学び合い、自らの実践の気付きを重視したラウンドテーブルを開催した。

#### 成果：※参加者の声など客観的な情報・データとともに記載して下さい。

##### 参加者の声より

・午前中の講演や報告が参考になり、「主体的な学び」には、発意や動機付けが重要であると。高校の各教科や探究が上手いかわからないのは、それが無いがしろされているからではないか。教師が学び続ける組織、コミュニティづくりには、システムだけではなく、信頼関係が必要。そのための具体策は対話、声かけ、定期的なイベント等々、さまざまな意見が出ました。和やかな雰囲気セッションができ、大変有意義でした。

・管理職の気持ちを聞いたのが良かった。探究に関してこれだけの人が興味を持ってやってくれているんだと励ましになった。今やっていることが間違いではなく応援されている気持ちになった。

・主に、探求学習に対する見方や考え方、捉え方が深まりました。やりたい！と自然に思わせるような仕掛けやタスクを設定し、子どもたちが自由にビノビと楽しく活動する姿や表情を楽しみに、早速明日からの実践に取り入れていきたいと思えます！

・学校種、地域、役職も異なるメンバーで講演や事例発表を元に現状を踏まえながら、協議できて自分一人では考えつかない話が聞け、自分の活動を話すことで整理できとても良い機会でした。

・教師が学び続ける組織、コミュニティづくりには、システムだけではなく、信頼関係が必要。そのための具体策は対

話、声かけ、定期的なイベント等々、さまざまな意見が出ました。和やかな雰囲気できセッションができ、大変有意義でした。

・それぞれ立場が異なる方々の考えや今の悩みを共有することで、自分にはない視点を得ることができたり、話すことで自分の考えを整理することにつながった。それが故に大変有意義なラウンドテーブルの時間だった。

## 「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気づき

提案（第一次）「5つの共通言語」を踏まえた上で、なかでも「探究型研修」「学び合いのコミュニティ」を意識した研修とした。「探究型研修」においては、主催者を含め多種多様な校種・役職、地域の参加者で協働探究のラウンドテーブルをおこなったことで、自己を対称化し俯瞰的にとらえることにより、参加者一人一人が省察を深めることができた。また、「学び合いのコミュニティ」においては、広域の参加者でラウンドテーブルを開催したことで、参加者が自身や組織の「枠組み」、「在り方」などに気づき、これまでの既成概念を再構築していくきっかけとなったといえる。さらには本研修によって参加者が「学びのコミュニティ」のネットワークを全国に広げ、繋げる素地となる研修であったと考える。以上が「NITS からの提案（第一次）」との関連の気づきといえた。

## アイデアや工夫したこと：

### 第一・二部 松木健一氏による基調講演および実践報告

### 保育実践：おふろプロジェクト

- ・期間：2024年5月下旬～7月下旬
- ・年少児が、砂場の「穴掘り」遊びから、「掘った穴をお風呂に見立てた」遊びに展開し、さらに「電車のお風呂」作りと発展した。
- ・年少児の遊びが、協働の探求に発展していく実践を報告する。
- ・1歳児・2歳児クラスの時、クラスで電車に乗った楽しい経験が生きていると推察している。
- ・本プロジェクトは、行事の演目にも発展している。

### 「実践を語ることの意義を考える」

講師：松木健一氏

第1部 講演会  
第2部 実践報告  
第3部 ラウンドテーブル

### 中島直樹 / Naoki Nakashima

- 2900 生まれる
- 2901 東京大学教育学部附属中等教育学校入学
- 2902 Mother Earth Project を立ち上げる
- 2903 東京国術大学 音楽学部 音楽実践創造科入学
- 2904 株式会社コナミデジタルエンタテインメント 入社
- 2905 リードコンポーザー (音響職) として働く
- 2906 現在

### 小川町の魅力を伝える 高校生食堂

## 第三部 ラウンドテーブル

### 第1部 講演会

- 11:00 開会あいさつ 司会 宇 (福井大学経済学部教授) 事務局長
- 11:05 講演会「主体的な学びが目覚めるとき」 講師 松木健一氏
- 11:15 質疑

### 第2部 実践報告

- 11:30 報告①「年少児の遊びにおけるプロジェクト実践」 実践者 伊藤 伊津 氏
- 11:45 報告②「東京国術大学附属『探究型研修』から学ぶ実践」 実践者 伊藤 伊津 氏
- 12:00 報告③「主体的な学びが目覚めるとき」実践者 伊藤 伊津 氏
- 12:15 質疑

### 第3部 ラウンドテーブル

- 13:00 ラウンドテーブルは、自己紹介
- 13:30 Session1「振り返りと感想」
- 14:30 Session2「感想」
- 15:30 シュアリング
- 15:50 開会あいさつ 福井 宇 (福井大学経済学部教授) 事務局長

